

第1会場講演15~35.

5月27日(日)大阪大学医学部4階第1講義室

15. 不静定構造物の未知量を含む多元1次連立方程式の
行列式による解法 (20分)

准員 日本大学工学部 遠藤篤康

1. 要旨 不静定構造物の應力を解くに當つては、數多の未知量を含む多元1次連立方程式を解くことに多大の手續と時間を必要とすることがしばしばあつて、これに對しては一般に消去法、イテラチオン法等の諸法があるがこれらに比してはるかに簡單で、かつ計算尺を使用して相當の精度を得られるものである。

2. 理論 本法は行列式による多元1次連立方程式の解法に Laplace の展開定理を應用し、未知量を1回に3個ずつ消去し得るものである。(山内恭彦著代數學及幾何學 165 頁参照)

いま一般形の多元1次連立方程式を n 個取り扱い、係数のみをまとめて表-1 の如くする。

次に表-1 の未知數及び方程式を3個ずつ區切り、その3個ずつの未知數を行列式において取り扱う。いま方程式(1), (2), (3) から取り扱ふとすれば、方程式(1), (2), (3) の $x_4, x_5, \dots, x_r, \dots, x_m$ までの項を方程式の右邊に移して、 τ_1, τ_2, τ_3 とおく(表-2)と、 x_1, x_2, x_3 は次の如くなる。

$$x_1 = \frac{\begin{vmatrix} \tau_1 & b_1 & c_1 & d_4 & e_4 & \dots & n_4 \\ \tau_2 & b_2 & c_2 & d_5 & & & \\ \tau_3 & b_3 & c_3 & d_n & \dots & n_n \\ a_1 & b_1 & c_1 & d_4 & e_4 & \dots & n_4 \\ a_2 & b_2 & c_2 & d_5 & & & \\ a_3 & b_3 & c_3 & d_n & \dots & n_n \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} a_1 & b_1 & c_1 \\ a_2 & b_2 & c_2 \\ a_3 & b_3 & c_3 \end{vmatrix}} = \frac{\begin{vmatrix} \tau_1 & b_1 & c_1 \\ \tau_2 & b_2 & c_2 \\ \tau_3 & b_3 & c_3 \end{vmatrix}}{\begin{vmatrix} a_1 & b_1 & c_1 \\ a_2 & b_2 & c_2 \\ a_3 & b_3 & c_3 \end{vmatrix}} = \frac{k_{11}\tau_1 + k_{12}\tau_2 + k_{13}\tau_3}{\Delta_1} \quad (1)$$

$$x_2 = \frac{\begin{vmatrix} a_1 & \tau_1 & c_1 \\ a_2 & \tau_2 & c_2 \\ a_3 & \tau_3 & c_3 \end{vmatrix}}{\Delta_1}, \quad x_3 = \frac{\begin{vmatrix} a_1 & b_1 & \tau_1 \\ a_2 & b_2 & \tau_2 \\ a_3 & b_3 & \tau_3 \end{vmatrix}}{\Delta_1} = \frac{k_{31}\tau_1 + k_{32}\tau_2 + k_{33}\tau_3}{\Delta_1}$$

また方程式(4), (5), (6) の右邊に移項したものを τ_4, τ_5, τ_6 とし、 $(r-1), (r), (r+1)$ の移項したものを $\tau_{r+1}, \tau_r, \tau_{r-1}$ とする。同様に (n) 式まで移項し τ_n とすると、 $x_4, x_5, x_6, \dots, x_{r-1}, x_r, x_{r+1}, \dots, x_{n-1}, x_n$ は次の如き關係を有する。

但し、 $\tau_4, \tau_5, \tau_6, \dots, \tau_{r-1}, \tau_r, \tau_{r+1}, \dots, x_{n-1}, x_n$ は〔表-1〕の3個ずつ區切つた對角線上のブロックを除いた外、全部の未知數を方程式右邊に移項したものである〔表-3, 4, 5〕

$$x_4 = \frac{\begin{vmatrix} \tau_4 & e_4 & f_4 \\ \tau_5 & e_5 & f_5 \\ \tau_6 & e_6 & f_6 \\ d_4 & e_4 & f_4 \\ d_5 & e_5 & f_5 \\ d_6 & e_6 & f_6 \end{vmatrix}}{\Delta_2} = \frac{k_{44}\tau_4 + k_{45}\tau_5 + k_{46}\tau_6}{\Delta_2}$$

$$x_5 = \frac{\begin{vmatrix} d_4 & \tau_4 & f_4 \\ d_5 & \tau_5 & f_5 \\ d_6 & \tau_6 & f_6 \end{vmatrix}}{\Delta_2} = \frac{k_{54}\tau_4 + k_{55}\tau_5 + k_{56}\tau_6}{\Delta_2}, \quad x_6 = \frac{\begin{vmatrix} d_4 & e_4 & \tau_4 \\ d_5 & e_5 & \tau_5 \\ d_6 & e_6 & \tau_6 \end{vmatrix}}{\Delta_2} = \frac{k_{64}\tau_4 + k_{65}\tau_5 + k_{66}\tau_6}{\Delta_2} \quad (2)$$

$$x_{r-1} = \frac{\begin{vmatrix} \tau_{r-2} & r_{r-1} & q_{r-1} \\ \tau_r & r_r & q_r \\ \tau_{r+1} & r_{r+1} & q_{r+1} \\ p_{r-1} & r_{r-1} & q_{r-1} \\ p_r & r_r & q_r \\ p_{r+1} & r_{r+1} & q_{r+1} \end{vmatrix}}{\Delta_r} = \frac{k_{r-1,r-1}\tau_{r-1} + k_{r-1,r}\tau_r + k_{r-1,r+1}\tau_{r+1}}{\Delta_r}$$

$$x_r = \frac{\begin{vmatrix} p_{r-1} & r_{r-1} & q_{r-1} \\ p_r & r_r & q_r \\ p_{r+1} & r_{r+1} & q_{r+1} \end{vmatrix}}{\Delta_r} = \frac{k_{r,r-1}\tau_{r-1} + k_{r,r}\tau_r + k_{r,r+1}\tau_{r+1}}{\Delta_r} \quad (3)$$

